

**Society of
International sustaining growth for
Antimicrobial
Articles**

profile

“KOHKIN”日本発、世界基準へ。

KOHKIN=抗菌

「抗菌」とは、「製品の表面の細菌の増殖を抑制する」ことをいいます。抗菌という言葉そのものは、近年新しく使われ出したものですが、高温多湿の日本において、抗菌につながる衛生面での知恵は古来から人々の暮らしの中に息づいていました。たとえば世界最古の木造建築である法隆寺では、主にヒノキが使われています。ヒノキには抗菌作用があり、1200年もの間、微生物やシロアリから建物を守ってきました。そして現在、日本人が古くから注目してきた抗菌が、モノづくりと結びついて、さまざまな抗菌加工製品が生まれています。抗菌製品技術協議会（SIAA: Society of Industrial technology for Antimicrobial Articles）は、適正で安心して使える抗菌加工製品の普及を目的に1998年6月に発足し、幅広い活動を行ってまいりました。2007年9月には、抗菌製品技術協議会が経済産業省の支援を受けて国際提案を行っていた抗菌試験方法が、国際標準化機構（ISO: International Organization for Standardization）において国際規格ISO 22196として承認されました（2007年10月発行）。殺菌や除菌が細菌を一時的に死滅、除去するのに対し、抗菌は、細菌の増殖を抑制するだけで、細菌を死滅させるものではありません。細菌との共生という日本文化に根ざしたアイデアと日本国内での長い実績が海外でも広く受け入れられ、日本から発信される「KOHKIN=抗菌」が、世界の人々の生活や健康の向上に寄与していくことに大きな期待がかけられています。



（商標登録出願中）

「JIS Z 2801」は 国際規格「ISO 22196」として承認・発行

1998年、抗菌製品技術協議会は、「SIAAマーク」の運用を開始し、自主基準を満たした製品に、信頼の証として表示することになりました。2000年には、経済産業省の指導の下、国家規格として「日本工業規格JIS Z 2801（JIS 抗菌規格）」を制定しました。2007年、JIS抗菌規格は、ほぼそのままの内容で国際標準化機構（ISO）に国際規格ISO 22196として承認されました。これにより抗菌製品技術協議会の会員企業が海外市場で販売する製品には「SIAA 抗菌ISOマーク」を表示するとともに、抗菌製品技術協議会への外国企業の入会を広く受け入れることになりました。

抗菌製品技術協議会の概要

名 称 抗菌製品技術協議会
(Society of Industrial technology for Antimicrobial Articles)

発 足 1998年 6月

SIAAマーク 1998年 12月 第1段運用開始
2001年 7月 第2段(抗菌JIS適合)
運用開始
2007年 11月 第3段(ISO22196準拠)
運用開始

自主規格 1998年 12月 制定(1998年度版)

会 員 数 159(2008年2月現在)

<会員内訳>

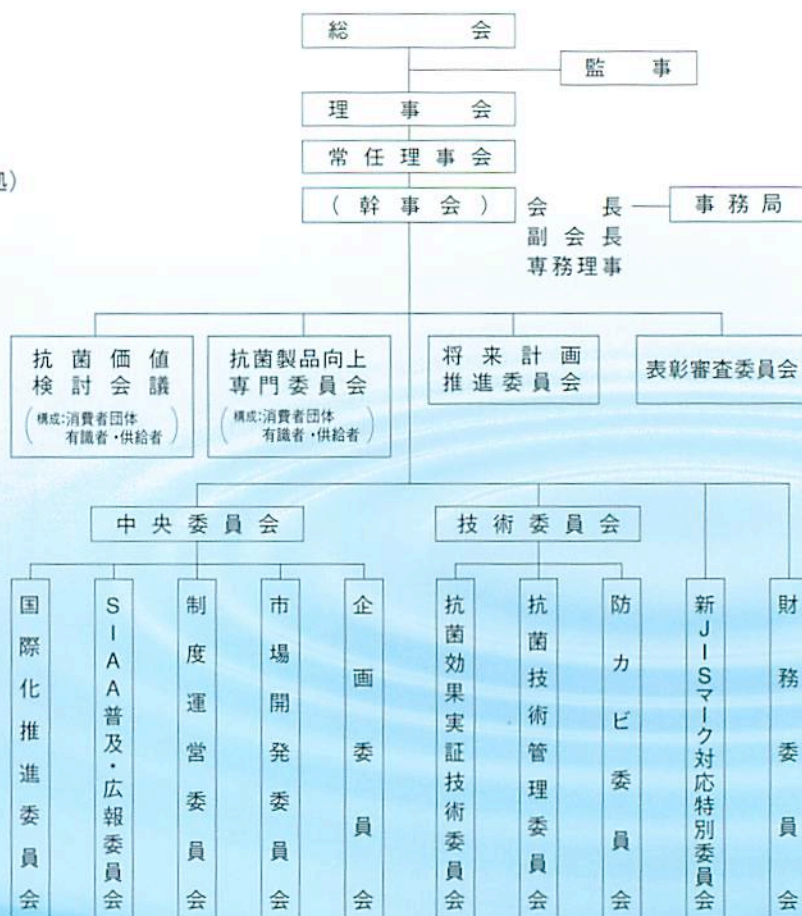
正 会 員 抗菌剤メーカー 30
抗菌製品メーカー 110

準 会 員 3

賛 助 会 員 抗菌試験評価機関6団体

特 別 会 員 学識経験者10名

[抗菌製品技術協議会組織表]



SIAAマークとは

SIAAは、英語名Society of Industrial technology for Antimicrobial Articles(抗菌製品技術協議会の団体名称)の略称で、消費者が納得できる「安心と信頼のシンボル」として抗菌製品技術協議会が定めるガイドラインを満たした抗菌加工製品・抗菌剤に対し、当協議会による教育等で認証した抗菌管理責任者の管理のもと会員企業の自己責任においてこの認証マークを表示することができます。SIAAマークはいわゆる「製品を保証する認証マーク」ではありません。SIAAマークは、会員が当協議会ガイドラインへの適合を自己責任において認証する「自己認証を表明するマーク」であり、かつ品質と安全性に関する情報が公開されていることを示す「品質と安全性に関する情報開示マーク」です。SIAAマークにはこの2つの意味があります。SIAAマークは当協議会正会員以外は使用できないことになっており、またその表示方法等の運用については協議会の自主管理によって厳しい市場監視が行われています。

[SIAAマーク]



抗菌製品技術協議会の主な活動実績

国際標準化機構 (ISO) に対する国際標準化活動

国際標準化機構横浜大会に参加 (2006年 9月)



国際微生物劣化研究グループ (IBRG) ※1との共同研究

IBRGの抗菌研究者を招いて京都会議開催 (2004年 3月)



アジアで初となるIBRG国際大会を奈良で開催 (2005年 11月)



抗菌製品技術協議会が
ホストを務める



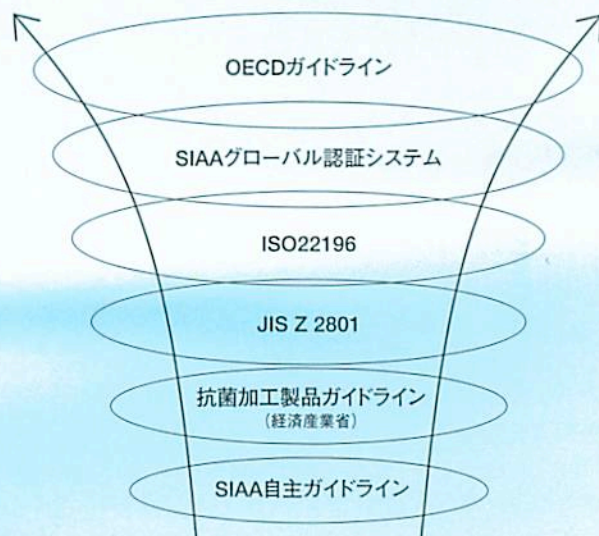
法隆寺を訪ね
日本の抗菌文化にふれる

抗菌製品技術協議会による自主イベントの開催

社長会。経済協力開発機構 (OECD) ※2 作業
部会のマルコム議長による特別講演 (2006年 9月)



ISO発行を受けて経済産業省局長・審議官
との意見交換会開催 (2007年 10月)



※1 国際微生物劣化研究グループ

(IBRG: International Biodeterioration Research Group)

1968年に経済協力開発機構 (OECD) の下部組織 (当時) としてパリに設立。年2回国際大会を開催。

※2 経済協力開発機構

(OECD: Organisation for Economic Co-operation and Development)

1948年、欧州16カ国で発足した欧州経済協力機構 (OEEC) を前身とし、1961年にアメリカ、カナダが加わり経済協力開発機構が発足。日本は1964年に加盟。現在30カ国が加盟。

抗菌製品技術協議会の活動

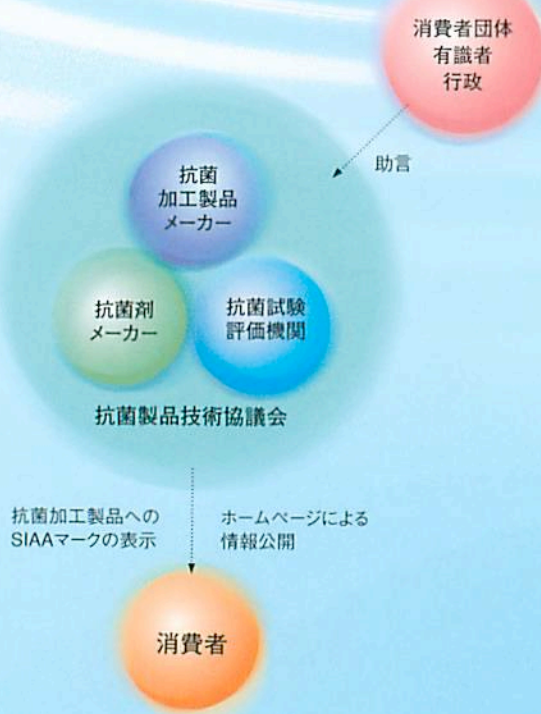
抗菌製品技術協議会は、適正で安心して使用できる抗菌加工製品の普及を目的に、抗菌剤メーカー、抗菌加工製品メーカー、抗菌試験評価機関によって設立された団体です。抗菌加工製品に関わる業界だけでなく、消費者代表、有識者および行政などから幅広い意見を聞きながら、抗菌加工製品に求められる品質や安全性に関するルールを整備し、かつそのルールに適合した製品にSIAAマークの表示を認めています。

優良な抗菌加工製品及び防カビ加工製品の普及を目的に以下を制定しています。

- ◎品質と安全性に関する自主規格
- ◎品質と安全性に関するデータ等の自主登録規定
- ◎抗菌加工製品および抗菌剤の表示・用語等に関する規定
- ◎「SIAAマーク」の運用規定
- ◎抗菌加工製品および抗菌剤についての抗菌管理責任者規定
- ◎抗菌試験管理士規定
- ◎防カビ剤ポジティブリスト運用規定

業界の透明性と公正な振興を図り、消費者および関係業界への普及啓発をはかるため、以下の活動を展開しています。

- ◎消費者団体、有識者、行政を構成メンバーとする「抗菌製品向上専門委員会」を設置し、社会的に開かれた協議会運営
- ◎抗菌加工製品の市場調査
- ◎業界各団体との情報交換の推進
- ◎講演会・セミナー・懇談会等の開催
- ◎国際微生物劣化研究グループ (IBRG) との連携
- ◎インターネットホームページによる各種情報の発信



安全性基準と品質管理

抗菌製品技術協議会では、消費者が安心して使用できる優良な抗菌加工製品（抗菌剤）を提供するために、安全性基準と品質管理のための「抗菌性能基準」を自主規格として制定し、会員の自主管理システムとして運用しています。

安全性基準

抗菌剤の安全性は、抗菌性能とのバランスをとることが重要です。安全性が高くて効果も低い場合、添加量（使用量）が多くなり安全性に問題が生じる場合もあり、逆に安全性に留意が必要な抗菌剤でも添加量が少量のため安全に使用できる場合もあります。このため、抗菌剤の最大使用量には安全性試験濃度を規定しています。また、抗菌剤構成成分には使用してはならない化学物質についても規定を設けています。

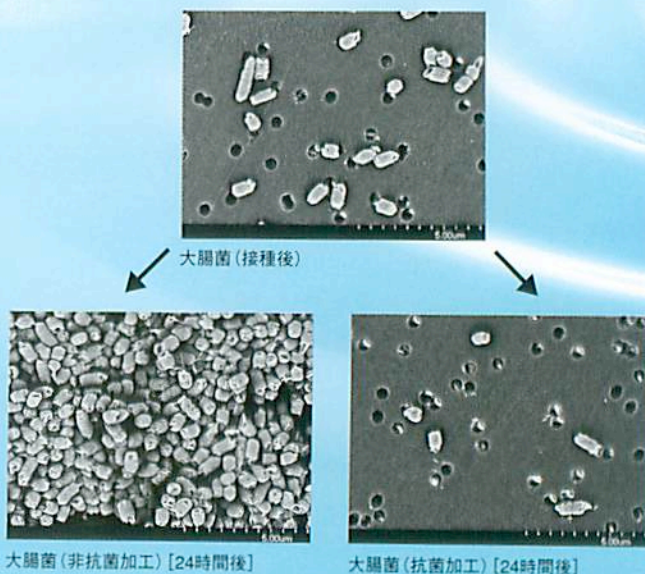
品質管理

一定の品質水準を確保した製品を自主管理するため、抗菌製品技術協議会は抗菌性能基準を規定しています。また、抗菌加工製品については、効果の持続性も求められる製品があることから使用用途等の適用区分に基づき持続性試験（耐水性、耐光性等）を行った後の抗菌性能試験をすることと規定しています。



抗菌評価試験

【抗菌加工と非加工の細菌の増殖イメージ写真】



大腸菌(非抗菌加工) [24時間後]

大腸菌(抗菌加工) [24時間後]

日用品、家電、住宅建材・設備、自動車部品、印刷物など



抗菌製品技術協議会は、単に細菌を死滅させるのではなく、適切なレベルで増殖を抑制、コントロールするという考え方を貫き、消費者の安全のため、「表示」と「情報開示」に至るまで自主管理を推進してきました。抗菌製品技術協議会は、抗菌加工の本来の目的を重視し、次の4つのコンセプトを活動の基本に置いており、4つのコンセプトは、そのまま国際規格である抗菌ISO規格にも引き継がれることになります。

- ① 生活者の立場に立ち、生活の質的向上に寄与する
- ② 環境負荷が小さく、微生物と共生できる
抗菌加工製品を提供する
- ③ 安全性と品質について情報公開する
- ④ 抗菌加工製品の正しい使い方の普及に努める

抗菌加工製品は、人々の暮らしの質的向上に役立つものとして諸外国にも支持され、その市場は現在国際的に拡大しています。抗菌加工製品の国内市場は、8000億円以上といわれていますが、ISO承認・発行により、その市場規模は、海外を含めてさらに大きく広がることが期待されています。ISOには、アジアでは日本のほかに中国、韓国、ベトナム、タイ、インドなどが、欧米ではアメリカ、イギリス、イタリア、スペイン、ロシアなどがそれぞれ加盟し、合計157カ国に及びます。

入会のご案内

抗菌加工製品の健全な発展と消費者への普及啓発を目的に活動する抗菌製品技術協議会では、当協議会の趣旨に賛同される日本国内はもとより海外も含め企業、団体等の入会を広く募集しています。会員資格は、正会員（抗菌加工製品または抗菌剤を製造あるいは販売する法人）、賛助会員（抗菌試験評価機関、工業会等）、準会員（抗菌加工製品または抗菌剤について販売予定があり知見を得たい法人）等があり、入会条件の適合および資料の提出が必要です（ただし準会員は別途）。詳細については抗菌製品技術協議会事務局までお問い合わせください。

入会すると…

- ◎抗菌剤、抗菌加工製品の自主登録により、国際的に通用するSIAAマークの表示が可能となります。（正会員のみ）
- ◎世界をリードする抗菌の国際的なルールづくりに参加できます。
- ◎国際規模の抗菌関連有益情報をいち早く入手できます。
- ◎国内外の抗菌関連企業との交流ができ、新しいビジネスチャンスが得られます。

入会するためには（入会の条件）

抗菌加工製品メーカー

抗菌加工製品の抗菌性能が本会自主ルールに適合していること

- ①抗菌性能はJNLA認定試験所発行の試験証明書で証明する。
- ②抗菌試験試料はまずその製品の用途に合わせた耐水性、耐光性試験による劣化促進を行った後のものを使用。
- ③抗菌評価試験はJIS Z 2801 5.2項（ISO22196）で行い、抗菌処理のない製品と比べ細菌の増殖割合が100分の1以下（抗菌活性値2以上）であること。

製品に使用されている抗菌剤の安全性が本会自主ルールに適合していること

- ①急性経口毒性 ②皮膚一次刺激性 ③変異原性 ④皮膚感作性

抗菌剤メーカー

抗菌剤の抗菌性能が本会自主ルールに適合していること

最少発育阻止濃度 800 μ g/ml以下

抗菌剤の安全性が本会自主ルールに適合していること

- ①急性経口毒性 ②皮膚一次刺激性 ③変異原性 ④皮膚感作性

防カビ加工製品メーカー

防カビ加工製品の防カビ性能が本会自主ルールに適合していること

無加工製品に比べJIS Z 2911（2000）法又はASTM G21-96法による防カビ性判定基準で1段階以上下回ること。

使用されている防カビ剤は本会防カビ剤ポジティブリストに収載されている防カビ剤のみであること

防カビ剤メーカー

防カビ剤の防カビ性能が本会自主ルールに適合していること

最少発育阻止濃度 800 μ g/ml以下

防カビ剤が本会防カビ剤ポジティブリストに収載されていること

- ①変異原性が陰性
- ②必要な安全性情報、環境影響情報、製品使用制限情報が開示されている

<http://www.kohkin.net>

抗菌製品技術協議会 事務局

〒151-0061

東京都渋谷区初台2-23-5-406

TEL: 03-5365-2650 FAX: 03-5365-2651

E-mail: fujimoto@kohkin.net

(2008.02)